

KOBELCO

株主の皆様へ

2019年4月1日～2020年3月31日

第167期



証券コード：5406

<お知らせ>

次回の株主様見学会につきましては、開催を見送ることいたしました。詳細は6ページをご参照ください。

株式会社神戸製鋼所



株主の皆様には、日頃から格別のご高配を賜わりまして厚く御礼申し上げます。

2019年度の業績やトピックスなどをご報告いたしますので、是非ご覧いただきたく存じます。

当期の業績及び配当について

当社グループの当期の連結業績につきましては、後述の「業績のご報告」でご説明いたしますとおり、売上高は前期に比べ1,020億円減収の1兆8,698億円、営業利益は前期に比べ384億円減益の98億円、経常損益は素材事業における販売数量の減少及び在庫評価影響の悪化、またチタン、鋳鍛鋼、アルミサスペンションなど素材系各事業の収益性が低下したことに加えて、建設機械事業における販売台数の減少や、中国での油圧ショベルの販売機種構成の変化もあり、前期に比べ427億円悪化の80億円の損失となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は、固定資産の減損損失や投資有価証券評価損を特別損失として計上したことから、前期に比べ1,039億円悪化の680億円の損失となりました。

また、通期の親会社株主に帰属する当期純損益が大幅な赤字になったことや、今後も不透明な経営環境が続くと予想されることなどを総合的に考慮した結果、当期の配当につきましては誠に遺憾ながら見送ることいたしました。

株主の皆様には、多大なご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。当社経営陣といたしましては、この状況を厳粛に受けとめ、2020年2月より当面の間、役員報酬の減額を実施しております。全役員・社員が一致団結して、早期の収益

改善に向けて全力で取り組んでまいりますので、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

収益改善に向けて

当社グループは、早期の収益対策が必要との認識のもと、本年2月に立ち上げた、「緊急収益改善 特別委員会」において緊急施策を含む固定費の削減、素材系を中心とした収益改善、運転資金の改善や資産売却などのキャッシュ創出策を実行に移しております。新型コロナウイルス感染症の世界的な経済への影響も踏まえ、今後、更なる固定費削減策、並びに追加のキャッシュフロー対策について、聖域なく検討し、実行してまいります。

今後の取組みについて

当社グループはこれまで、「素材系を中心とした収益力の強化」及び「経営資源の効率化と経営基盤の強化」を2019～2020年度の2年間でやりきるテーマとして掲げ、取り組んでまいりました。

しかしながら、2019年度に素材系事業で多額の固定資産の減損損失を計上したことが示すとおり、「素材系を中心とした収益力の強化」については、ものづくり力や販売価格の改善が依然不十分であり、戦略投資案件における収益化の遅れなど多くの課題が残されております。

米中貿易摩擦を背景とした需要の減少、新型コロナウイルスの影響など、以前にも増して厳しい事業環境に直面しており、当社グループが生き残り、そして持続的成長を成し遂げていくためには、現実を真摯に

受け止め、変化を恐れずに改革を進めていく必要があると認識しております。

当社グループは、このような認識を踏まえ、2021年度からスタートする次期中期経営計画期間に向け、危機感をもって2020年度から次の取組みを進めてまいります。

まず、足下から当面の間は、引き続き、設備投資・融資を厳選して投資支払を抑制するとともに、固定費についても可能な限り抑制する方針です。

その上で、次期中期経営計画期間に向け、真に競争力ある製品・サービスへ特化し、収益力の回復を図ってまいります。

また、多様な技術を有する当社グループならではの長を活かした価値創造を追求し、環境負荷軽減に貢献するビジネスの拡大や機械系事業の可能性の探求など、将来の成長分野・新規分野への取組みを推進いたします。新型コロナウイルスの影響により、生活スタイルが大きく変わる可能性があります。現在社会が抱えている環境負荷軽減をはじめとした課題は何ら変わることはありません。そうした中、当社グループには、例えば、世界シェアの60%以上をもつ直接還元鉄技術(MIDREX®プロセス)の活用によるCO₂削減、輸送機軽量化技術、ICT・IoT技術を活用した建設機械、水処理技術、工場の自動化技術、圧縮機技術を活用した生産現場における省エネルギーへの貢献など、社会課題の解決に資する将来性豊かな技術や製品が数多くあります。このような多様な技術・製品の可能性を探求し、企業価値の向上を目指してまいります。

さらに、このような取組みを進めるうえでの指標として、事業ユニット単位での投下資本収益率(ROIC)による管理を導入いたします。今後は、ROICによる資本コストを意識した上で、各事業ユニットの現在の位置づけを明確にし、財務的な観点、及び国連の定める持続可能な開発目標(SDGs)といった国際社会共通の目標と成長性を念頭に置き、将来の方向性について検討を進め、全社的な視点から、事業ユニット単位にまで踏み込んだ最適な事業ポートフォリオの構築を進めてまいります。

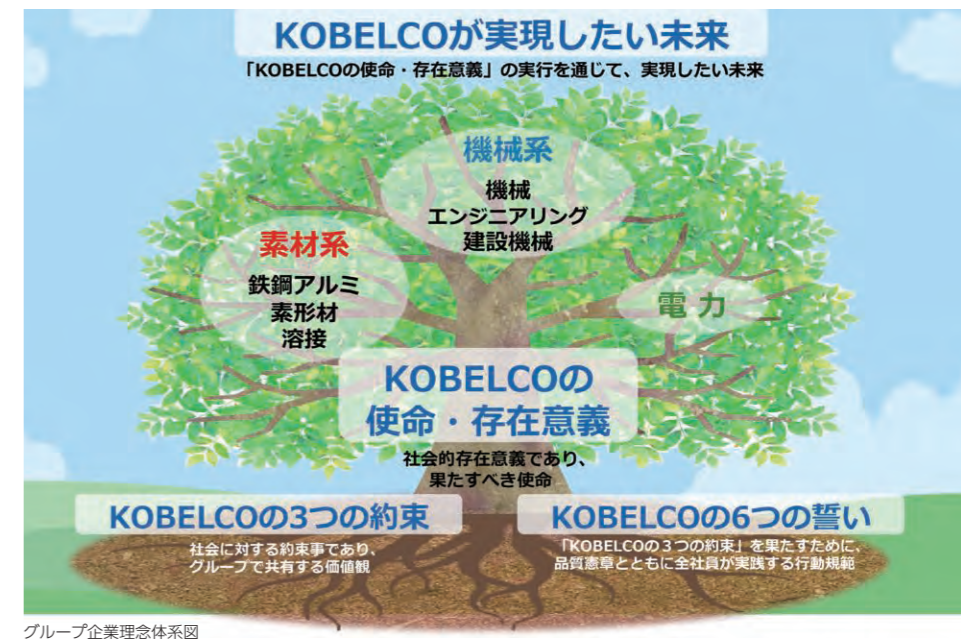
加えて、事業を下支えし、多様な事業を有機的に結びつけることが出来る経営基盤、組織構造のあり方についても検討を進めてまいり所存です。

当社グループは創業以来、技術や製品、サービスを通じて環境や社会への独自の貢献を図ってまいりました。2017年10月に発覚した当社グループにおける品質不適切行為を契機に、これまでの当社グループの歩みを振り返り、当社グループの存在意義とは何かをあらためて見つめなおすべく、グループ社員が各職場で議論してまいりました。この議論の結果を集約し、グループ社員の思いを抽出したうえで、本年5月に、「KOBELCOが実現したい未来」、「KOBELCOの使命・存在意義」を新たに定義し、従来の「KOBELCOの3つの約束」、「KOBELCOの6つの誓い」とあわせて、あらためて新グループ企業理念として体系化いたしました。

この新グループ企業理念には、当社グループが今後、社会の中でかけがえのない存在として在り続け、そして、持続的に成長していくために必要な考えが謳われています。当社グループは、この新グループ企業理念をあらゆる事業活動の基盤とし、当社グループが有する多種多様な技術や製品、サービスと人材の総合力を発揮することで、社会課題を解決し、持続的に成長を目指す、サステナビリティ経営を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

2020年6月

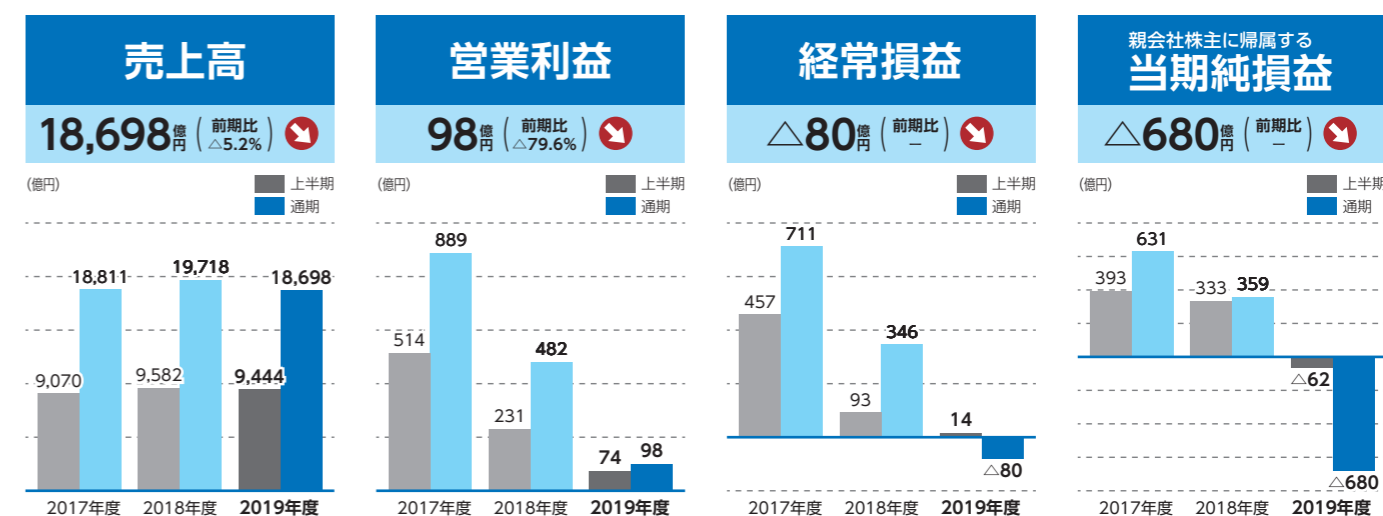


当期の概況

鋼材の販売数量は、米中貿易摩擦を背景に、海外の自動車向けを中心に需要が減少し、さらに期末にかけて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたことから、前期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材向けの需要は前期並で推移したものの、自動車向けや半導体・IT向けの需要が減少したことから、前期を下回りました。銅圧延品の販売数量は、銅板条において自動車用端子や半導体向けの需要が減少したことや、銅管においても下期にかけて海外の需要が減少したことから、前期を下回りました。油圧ショベルの販売台数は、建設投資が堅調に推移した国内や、政府の景気刺激策によりインフラ投資が好調であった中国では増

加したものの、インフラ工事の延期の影響等により需要が減退した東南アジアをはじめ、海外での販売が前期を下回った結果、全体としては前期を下回りました。この結果、当期の売上高は、前期に比べ1,020億円減収の1兆8,698億円となり、営業利益は前期に比べ384億円減益の98億円、経常損益は前期に比べ427億円悪化の80億円の損失となりました。特別損益は、投資有価証券売却益を計上した一方、固定資産の減損損失や投資有価証券評価損を計上したことから574億円の損失となり、親会社株主に帰属する当期純損益は、前期に比べ1,039億円悪化の680億円の損失となりました。

業績ハイライト(連結)



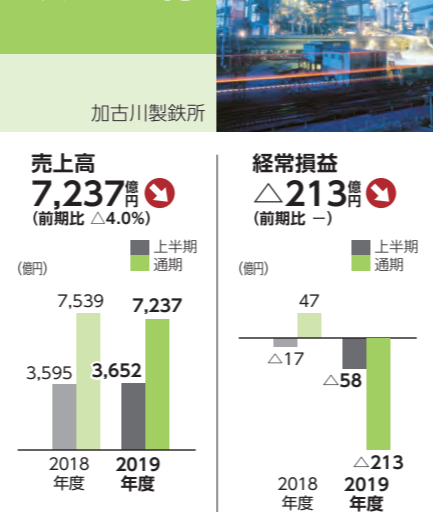
事業別売上高(2019年度)



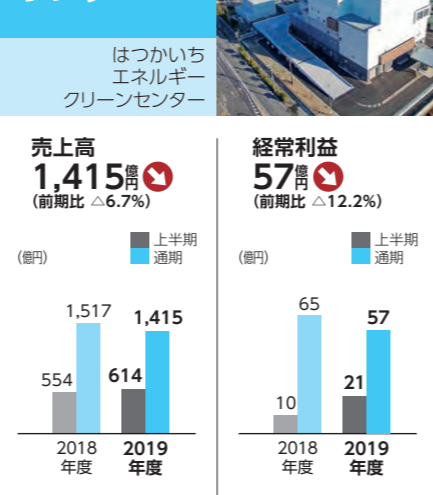
- 鉄鋼 38%
- 溶接 4%
- アルミ・銅 17%
- 機械 9%
- エンジニアリング 7%
- 建設機械 19%
- 電力 4%
- その他 2%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額488億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額18,698億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

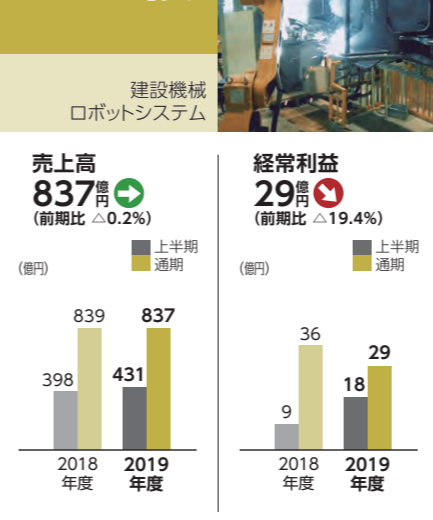
鉄鋼



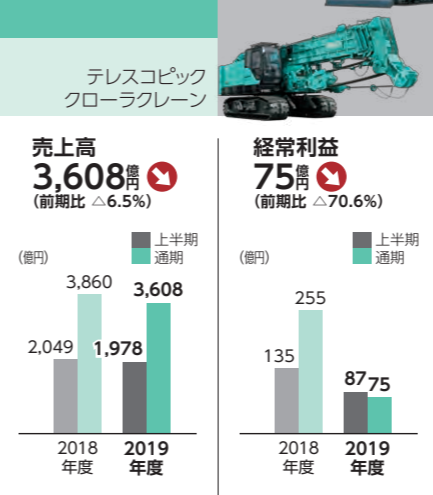
エンジニアリング



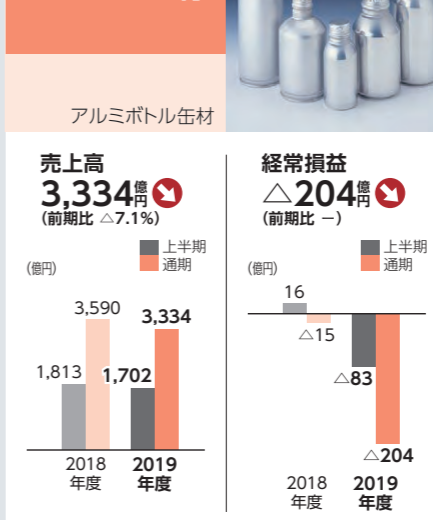
溶接



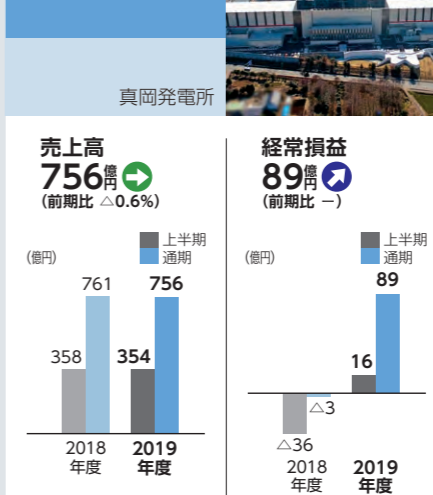
建設機械



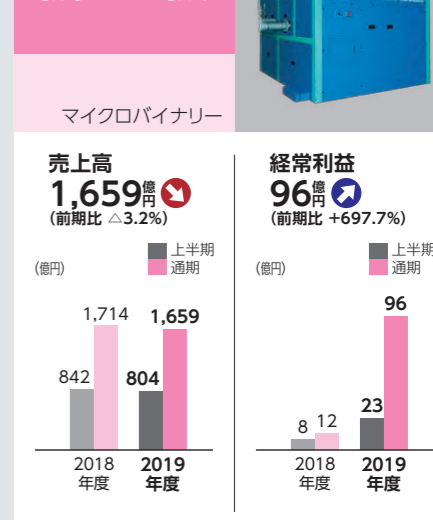
アルミ・銅



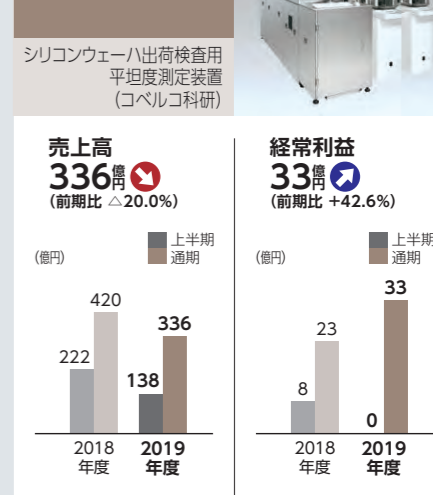
電力



機械



その他



2019年度下半期 (2019年10月～2020年3月)

10月

機械

日本中央競馬会栗東トレーニング・センター内、
バイオマスプラント向けに「スクルー式発電機」と
「バイナリー発電機」を納入

当社は、日本中央競馬会栗東トレーニング・センター内にあるバイオマスプラント向けに、スクルー式発電機^{※1}とバイナリー発電機^{※2}を納入しました。本プラントでは、トレーニング・センター内で発生する使用済み馬房敷料を燃料とし、最大620kWを発電し、

バイオマス発電としては小型ながら、大型並みの高効率性を実現しています。当社は、今後も技術・製品・サービスの提供を通し、エネルギーの有効活用によるCO₂排出削減に貢献してまいります。



設置されたスクルー式発電機とバイナリー発電機

※1スクルー式発電機:蒸気でタービンを回転させて発電する小型蒸気発電機。当社の得意とするスクルー式の技術を元に、世界最高水準の効率を達成しています。
※2バイナリー発電機:未利用エネルギーの中でも温度の低い温水や産業排熱などを熱源に、沸点の低い媒体を加熱・蒸発させて、その蒸気でタービンを回転させて発電するシステムで、スクルー式発電機の後工程に設置する事で、高効率な発電を実現できます。

11月

12月

2020年
1月

電力

(株)コベルコパワー真岡 真岡発電所2号機の営業運転開始

当社の100%子会社である(株)コベルコパワー真岡は、真岡発電所2号機の営業運転を開始しました。2019年10月に1号機の営業運転を開始しており、発電規模124.8kWとなる本発電所の本格的な操業が始まりました。本発電所は、東京ガス(株)から都市ガスの供給を受け、最新鋭の発電方式による国内最高レベルの効率で発電を行ないます。また、津波に遭う危険がない内陸部に立地するため、リスクの分散効果が期待されます。これにより、内閣官房と経済産業省による国土やエネルギー基盤の強靱化に資する事例に選定されました。



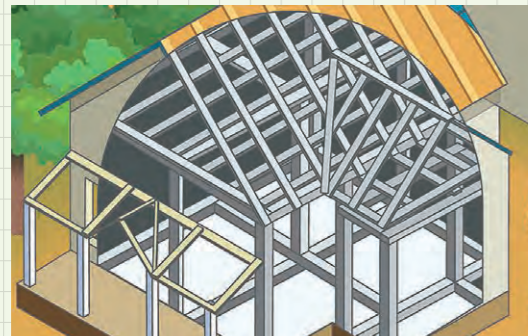
真岡発電所

2月

鉄鋼

KOBEMAG[®]建築基準法に適合する大臣認定取得

当社は、この度、高耐食性めっき鋼板「KOBEMAG[®]」について建築基準法(第37条第二号)に適合するも



参考図:構造部材適用部位

のとして国土交通大臣の認定を取得しました。当社はKOBEMAG[®]のブランドで、太陽光発電架台、土木建築部材を中心に電機関連へも受注を拡大させてまいりました。この度の大臣認定取得により、KOBEMAG[®]は住宅メーカー様・建築部材メーカー様などに、建築構造部材用途はもとより幅広い用途で採用いただける素材となりました。当社は早期の自社一貫生産を目指し、大臣認定取得を機に更なる受注拡大を図ります。

※KOBEMAG[®]:「KOBEMAG[®] Magnesium Aluminum Galvanized Steel」の略で、高い耐食性能を有した合金めっき鋼板。優れた耐食性、耐塩付き性、加工性を有し、構造用から建築、電機、自動車分野など広く適用いただける鋼板です。

3月

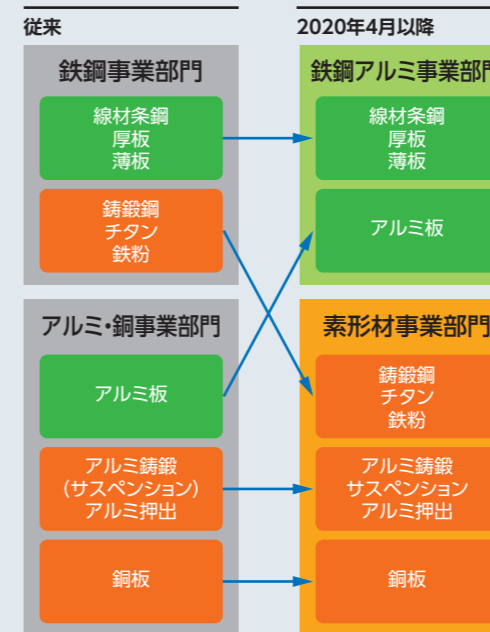
株主様見学会の開催見送りについて

当社は、株主の皆様にご理解を一層深めていただくために、定期的に株主様見学会を開催しておりますが、**昨今の新型コロナウイルスの感染拡大を受け、10月下旬から11月中旬頃に開催してございました株主様見学会につきまして、本年の開催を見送ることといたしました。**開催を楽しみにしていただいていた皆様には誠に申し訳なくお詫び申し上げます。事情をお察しいただき、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、株主様見学会につきましては、今後も継続して開催を予定しておりますので、今後とも、当社へのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

素材系事業の組織改編に関するお知らせ

当社は、素材系事業のうち、鉄鋼事業部門とアルミ・銅事業部門を、2020年4月1日付で「鉄鋼アルミ事業部門」と「素形材事業部門」の2事業部門へ改編しました。



主要改編点

各製品事業の競争力と市場変化への対応力の強化

- 製品毎に事業ユニット制を導入。
鉄鋼アルミ事業部門：4ユニット 素形材事業部門：7ユニット

自動車軽量化戦略の更なる強化・推進

- 自動車向け「薄板」と「アルミ板」の各営業と商品技術組織を統合し、両製品を扱う組織へ。
営業部：3部6室・グループ → 2部4室 商品技術部：4グループ → 3グループ

共通機能の人材共有化による業務効率化推進

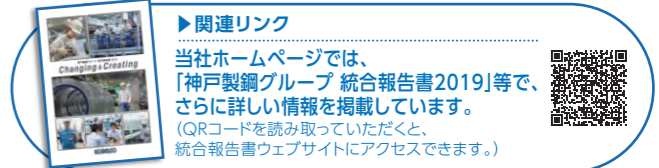
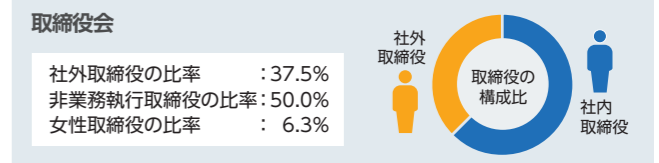
- 両事業部門の原料部、システム技術部を統合し、鉄鋼アルミ事業部門に配置。
- 両事業部門の知的財産部を、本社知的財産部に統合。
- ソリューション提案力の向上と、「ものづくり力」の強化を目的に、ソリューション技術、生産プロセス技術開発組織を統合、機能拡充し、技術開発本部に設置。

その他

- 両事業部門の企画・管理部門を、それぞれの事業部門運営に最適な機能・組織に見直し。
- 神戸製鉄所を加古川製鉄所に統合し、神戸線条工場と改組。

取締役 (2020年6月24日現在) | 社内取締役 | 社外取締役

業務執行	社内取締役	社外取締役
代表取締役社長 山口 貢	代表取締役副社長執行役員 興石 房樹	代表取締役副社長執行役員 森崎 計人
代表取締役副社長執行役員 柴田 耕一朗	代表取締役副社長執行役員 水口 誠	代表取締役副社長執行役員 永良 哉
取締役専務執行役員 北川 二朗	取締役専務執行役員 勝川 四志彦	取締役専務執行役員 伊藤 ゆみ子
社外取締役 北畑 隆生	社外取締役 馬場 宏之	社外取締役 伊藤 ゆみ子
取締役(監査等委員) 石川 裕士	取締役(監査等委員) 対馬 靖	社外取締役(監査等委員) 河野 雅明
社外取締役(監査等委員) 宮田 賀生	社外取締役(監査等委員) 三浦 州夫	



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

会社の概要 (2020年3月31日現在)

創立 1905年9月	株主数 189,521名
発行済株式総数 3億6,436万4,210株	従業員数 11,560名
資本金 2,509億3,003万3,900円	

株式のお手続きに関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求及び相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777 (通話料無料(平日9:00~17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。
※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

環境への取り組みと社会との共生

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、「環境に配慮した生産活動」、「技術・製品・サービスでの環境への貢献」、「社会との共生・協調」を環境経営基本方針として定め、社会的責任を果たすとともに、企業価値向上に努めています。

第7回 KOBELCO 森の童話大賞

次世代を担う子どもたちに、さまざまな自然の恵みをもたらす森を大切に作る気持ちを育ててもらふことを目的とし、全国の小学生、中高生から「森」をテーマにしたおはなしを毎年、募集しています。

2019年度の第7回は605件の応募をいただき、大川 蒼宙乃さんの「里山のジュース屋さん」(小学生の部)と、赤土 晴音さんの「おいしい森の作り方」(中高生の部)が金賞を受賞しました。金賞作品は絵本作家の挿絵で絵本化し、後援自治体所管の小学校・中学校・高校・特別支援学校・公立図書館等に、約2,000セット寄贈しました。



第7回金賞作品絵本

※詳細につきましては、当社ホームページの専用ページ (<https://www.kobelco.co.jp/mori-ohanashi/>)をご覧ください。



社会との共生

神戸製鋼グループは、未来を担う子どもたちの成長をお手伝いするため、様々な活動を行なっています。



小学校へ図書を寄贈

2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」では、神戸製鋼グループの事業所・研究所が立地する地域の子どもたちを対象に、遊具や絵本、教材などを毎年寄贈しています。2019年度も、日本各地の神戸製鋼グループの複数の事業所や研究所が、地域の保育所への子どもの健康や安全に配慮した遊具の寄贈や、地方自治体の子ども向けイベントへの支援などの活動を実施しました。

また、当社が支援しているNPO法人「SCIX(シックス)」が考案した球技「スペースボール」を、近隣の小学生に体験していただく際のお手伝いをしています。「スペースボール」は、子どもたちの身体能力の向上やチームプレーの習得に適した球技で、2019年度は13校(約1,200名)に体験していただきました。13校の皆様には、スペースボールの体験とあわせて、当社が運営している



スペースボールを体験する子どもたち

地域交流施設「灘浜サイエンススクエア」もご見学いただきました。

神戸製鋼グループは、今後もこうした活動を継続し、社会との共生を図っていきます。



▶ 関連リンク

当社ホームページでは、「神戸製鋼グループ 統合報告書2019」等で、さらに詳しい情報を掲載しています。
(QRコードを読み取っていただくと、統合報告書ウェブサイトへアクセスできます。)



グループ企業理念

KOBELCOが実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来	安全・安心で豊かな暮らしの中で、今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの使命・存在意義	神戸製鋼グループの社会的存在意義であり、果たすべき使命	個性と技術を活かし合い、社会課題の解決に挑みつづける。
KOBELCOの3つの約束	神戸製鋼グループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観	1.信頼される技術、製品、サービスを提供します 2.社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3.たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすために品質憲章とともに全社員が実践する行動規範	1.高い倫理観とプロ意識の徹底 2.優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3.働きやすい職場環境の実現 4.地域社会との共生 5.環境への貢献 6.ステークホルダーの尊重